



宮城県南海岸林再生へ

10年で50万本 被災農家ら苗木育成 公益法人計画

東日本大震災の津波で失われた海岸林再生に向けた苗木生産と、被災者の生計支援を組み合わせた試みが、被害の大きかった宮城県内で計画されている。苗木の育成を地元

の被災農家らで担う組織を、国内で環境保全

専門を兼ねる公益財団法人オイスカ(東京)が全面支援する取り組みで、実現すれば被災地の人的資源を生かした海岸林再生策となりそう

だ。オイスカによると、宮城県南への植林を想定。10年間でクロマツを中心に50万本(100分相)の生産を目指す。震災で浸水した宮城県内の海岸林は被災県で最も広い1753.3haで、50万本は県内の海岸林再生に必要と想定される量の12分の1程度。事業費は10年間で3億円を見込

む。オイスカが寄付などで調達する。苗木を担う団体を地元

の被災農家らで結成してもらい、年内にも宮城県農林産物農協(県産組、仙台市)に生産事業者として登録。県産組を通じて種を購入し、オイスカが確保した用地で苗木を育て、苗木育成費の支払いを受けることで、賃金収入を得られるようにする。

オイスカは「海岸林再生は沿岸被災地共通の課題。被害の大きい宮城で被災者の生計支援にもなるプロジェクトを成功させたい」と話している。

東日本大震災関連記事

- 復興財源 たばこ、相続税も検討 2
- 個人向け私的整理申請わずか 3
- 海岸林 被災農家の力借り再生 3
- 環境共生型共同住宅を建設へ 23
- 焦り、自信 就活手探り 24

きよこの紙面

- 中日落合監督、今季限りで退団 10
- 暴力団排除条例を東北で初適用 24